



1 第4号溝跡第2地点 (第392図77)



3 第4号溝跡第2地点
(第392図81) 細部 (1)



2 第4号溝跡第2地点
(第392図81)



4 第4号溝跡第2地点
(第392図81) 細部 (2)



5 第4号溝跡
第2地点
(第392図80)



6 第4号溝跡
第2地点
(第392図80) 細部



1 第4号溝跡第2地点
(第392図79)



2 第4号溝跡第2地点
(第392図79) 細部



3 第4号溝跡第2地点 (第393図85)



1 第4号溝跡第3地点 (第397図29)



2 第4号溝跡第3地点 (第397図30)



3 第4号溝跡第3地点
(第397図31)



4 第4号溝跡第3地点
(第397図31) 細部 (1)



5 第4号溝跡第3地点
(第397図31) 細部 (2)



1 第4号溝跡第3地点 (第398図33)

2 第4号溝跡第3地点 (第398図34)



1 第4号溝跡第3地点 (第397図32)



2 グリッド (第399図12)



3 グリッド (第399図2)



4 グリッド (第399図6)



5 グリッド (第399図16)



6 グリッド (第400図21)

報告書抄録

ふりがな	ぜにつかに／しろしきいち							
書名	銭塚Ⅱ／城敷Ⅰ							
副書名	高坂駅東口第二特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第369集							
編著者名	富田和夫・山本 靖							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2010(平成22)年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぜにつか いせき 銭塚遺跡 (第2・3次)	さいたまけんひがしまつやまし 埼玉県東松山市 おおあざたかさか 大字高坂307-1 ばんちほか 番地他	11212	369	36° 00' 28"	140° 15' 38"	20030408 ～ 20030430 20030801 ～	21,700	土地区画 整理
						20040324 20040408 ～ 20050331 20050401 ～ 20060331		
しろしき いせき 城敷遺跡 (第1・2次)	さいたまけんひがしまつやまし 埼玉県東松山市 おおあざたかさか 大字高坂347-1 ばんちほか 番地他	11212	370	36° 00' 24"	140° 15' 38"	20040324 20040408 ～ 20050331 20050401 ～ 20060331	21,700	土地区画 整理
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
銭塚遺跡	集落跡	弥生時代	土器棺墓	1基	弥生土器(岩鼻式)	小児の歯出土。		
		古墳時代	住居跡	15軒	土師器 須恵器			
			掘立柱建物跡	6棟				
			土壇	10基				
			溝跡	6条				
奈良・平安時代	住居跡	45軒	土師器 須恵器	畿内産土師器2点出土。4×3間総柱建物跡。				
	掘立柱建物跡	12棟	鉄製品					
	土壇	8基						
	溝跡	9条						
	ピット列	1列						
中・近世	掘立柱建物跡	1棟	陶磁器	木製品				
	土壇	3基						
	溝跡	5条						
	井戸跡	7基						
時期不明	住居跡	2軒	土師器	須恵器				
	土壇	14基						
	溝跡	18条						
	ピット	多数						
城敷遺跡	集落跡	古墳時代	住居跡	31軒	土師器 須恵器	大溝跡から多量の土器・木製品が出土。初期須恵器(樽形甗)、木製梯子など出土。		
			掘立柱建物跡	3棟	木製品 石製品			
土壇	9基							
溝跡	16条							
大溝跡	1条							
中・近世	溝跡	5条	陶磁器					

要 約

銭塚遺跡・城敷遺跡は埼玉県東松山市高坂に位置する。都幾川右岸の自然堤防上に立地し、標高20m前後である。東約400mに位置する反町遺跡も有機的な関連をもつ遺跡で、3遺跡によって一つの遺跡群（反町遺跡群）を構成する。

銭塚遺跡は古墳時代中期～奈良・平安時代にかけて営まれた集落である。第18号掘立柱建物跡は4×3間総柱構造の建物跡で、柱穴掘り方が大きく、栗石が敷設されていた。一般集落の倉庫の中では破格の規模と構造である。出土遺物の中には、畿内産土師器が2点含まれていた。畿内産土師器は地方官衙や関連遺跡から出土する例が多く、注目される資料である。

城敷遺跡は主に古墳時代前期～古墳時代後期前半にかけて存続した集落遺跡である。集落の中を大溝跡（河川流路）が蛇行して流れ、集落と大溝跡が一体として機能したことが判明した。水辺に降りる階段状施設や堰、護岸施設の木組みなどが検出され、大溝内からは多量の遺物と祭祀の跡が発見された。本書報告分からは木製槽や長さ3mにも及ぶ一木を削り出した梯子、漆掻きの痕跡を残す漆原木等が出土した。土器類では初期須恵器の樽形甕が破碎された状態で出土した。樽形甕は非常に出土例の少ない遺物であり、何らかの祭祀に使用されたと考えられる。巨視的にみると、城敷遺跡から銭塚遺跡へ集落の移動が認められる。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第369集

銭塚Ⅱ／城敷Ⅰ

高坂駅東口第二特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ
(第2分冊)

平成22年3月19日 印刷

平成22年3月24日 刊行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 熊谷市船木台四丁目4番地1
電話 0493-39-3955
<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／藤庄印刷株式会社